

## オーディオ実験室収載

### モーツアルト盤を聴く (61) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(61)—

#### 1. 始めに

前報(60)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もヴァイオリン協奏曲です。

ドイツグラモフォン 18MG-4526

モーツアルト ヴァイオリン協奏曲 3 番ト長調

ヴァイオリン協奏曲 5 番イ長調

アンネ・ゾフィー・ムター (ヴァイオリン)

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

ムターとカラヤンという定評のある師弟コンビの演奏で、ムターらしいヴィブラートを効かせた華やかな演奏と耽美的なカラヤン指揮のベルリンフィルの音色がマッチしており、ある意味モーツアルトの協奏曲の定番とっていいかもしれません。

#### 3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、ムターとカラヤンという定評のあるコンビの華やかで耽美

的な演奏であることが判ります。

以上